



ふねあいのひろば

第3号

発行
岡山市国際交流協議会
岡山市役所秘書課内
〒700 岡山市大供1-1-1
TEL. 0862-25-4211

国際化時代を迎えて

岡山市国際交流協議会会長 梶谷 忠二

平素から、本協議会の活動に対しましては、御理解と御協力を賜っており心から厚くお礼申し上げます。お蔭をもちまして、昭和62年度事業も大きな成果をあげることができました。

とりわけ、アメリカ・サンノゼ市との姉妹都市縁組30周年を記念した祝賀行事の開催にあたりましては、一昨年は岡山市で、昨年はサンノゼ市で、それぞれ多数の市民の御参加をいただき、これまでの交流の歴史に輝かしい1ページを加えることができました。両市の友情を一層堅固なものにすることができました。

また、二番目の姉妹都市であるコスタリカ・サンホセ市とは、ここ数年交流が停滞気味でしたが、昨年46人も市民が8年ぶりに親善訪問し、言葉の壁をこえてふれあいを深め、両市の友好関係は大きな前進をみました。

さらに、中国・洛陽市からは副市長を団長とする友好訪日団を迎え、市内各所で市民との交流を深めました。

このように、世界各地に私たちの岡山を理解し、心の通じ合う多くの友人がいることを思うと、非常に心強く感じますとともに、今後国際交流を点から線へ、さらに面に広げ、世界平和に貢献してまいらなければならないと痛感するものであります。

さて、去る3月11日には新岡山空港が開港し、さらに4月10日には世界的な観光資源ともいわれる瀬戸大橋が開通いたします。こうした岡山市を取り巻く環境の変化により、海外からの来訪者が増加することが予想され、岡山市は国際都市として大きく飛躍することが期待されております。今後、本協議会の果たす役割は一段と重要性を増し、会員一人ひとりが国際交流の担い手として活躍することが求められてくるものと思われまます。

どうか、会員の皆様におかれましては、心のふれあう市民交流の推進のため、一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



サンノゼ市親善訪問団：サンノゼ市庁舎前にて



— 縁組30周年記念 —

姉妹都市親善



サンノゼ・サンホセを訪ねて

岡山・サンノゼ姉妹都市縁組30周年記念事業
実行委員会委員長・サンノゼ市親善訪問団団長

岡山市長 松本 一

人々の目がまだ海外に向けられていなかった昭和32年、本市はアメリカ合衆国サンノゼ市と姉妹都市縁組を結んで以来、幅広い交流を続け、昨年30周年を迎えました。これを記念してサンノゼ市で開催された種々の祝賀行事に参加する親善訪問団を募集しましたところ、市議会や市民の皆様にご多数御参加いただき、総勢90人の訪問団を派遣することができました。

10月17日、台風一過の岡山を出発、サンノゼ市を訪問後、二番目の姉妹都市であるコスタリカ共和国サンホセ市の親善訪問や、アメリカ南部の視察を通じて市民交流に大きな成果をあげ、同月27日、全員元気に帰国できたことを団長として心から喜んでおります。

さて、私のサンノゼ市訪問はこのたびが3回目ですが、「全米で最も急速に成長した都市」といわれるとおり、訪問のたびに街並の変貌ぶりは著しく、目を見張るばかりの発展を続けており、姉妹都市として大変嬉しく、誇らしく思う次第であります。

サンノゼ市では団員の皆様とともに多彩な公式記念行事に参加し、トーマス・マツケナリー市長をはじめ多くの市民の心温まる歓迎を受け、30年間に築き上げた友好交流の歴史の重みをしみじみと感じた次第であります。なかでも後楽園を模して造られた日本友情庭園に完成した友情門の通り初め、本市の現況を写真パネルや特産品で紹介するサンノゼ・オカヤマ・フレンドシップ・フェア、歓迎レセプションには大勢の市民が参加され、姉妹都市オカヤマに対する関心の深さを伺い知ることができました。

友情門の完成式では、除幕用の紐が短すぎて手が届かず脚立を急ぎよ用意したり、くす玉割りでは玉が完全に割れないうちに落下するなどハプニングの連続で、参加者は笑いの渦に包まれたのも今では愉快な思い出です。また、西大寺小学校の姉妹校であるブラックフォード小

学校の訪問でも、キャストナー校長をはじめ教職員やかわいい児童の大歓迎を受け、将来の両市交流の担い手となる子供たちの元気な姿に接し、大変心強く思いました。

サンノゼ市訪問に続いて、かねてより訪問することを楽しみにしておりましたサンホセ市に向かいました。サンフランシスコを早朝発ち、サンホセには午後9時前に着くという長時間のフライトのためラフな服装で参りましたところ、夜遅くにもかかわらず空港にはクルス市長夫妻、江藤駐コスタリカ大使ら関係者が出迎えてくださり恐縮いたしました。

私にとりましては初めてのサンホセ訪問で、期待するところも大きかったのですが、実質まる1日という短い滞在にもかかわらず、日本大使館の全面的な御支援を得て、クルス市長、ケーレルマン州知事をはじめ多くの市民とふれあい、交流の進展に大きな成果をあげることができました。また、今後の両市の交流についても率直に話し合い、未長く友好親善を図っていくことを確認し、近く縁組20周年を迎える友好関係はより堅固なものとなりました。これらの交流を通じて、友好を深めるためには、お互いに訪問し直接顔を合わせて話し合うことが大切との思いをひとしお強くしたサンホセ訪問でありました。

さて、本年は国際化に一層拍車がかかることが予想される瀬戸内新時代の幕明けの年であり、姉妹・友好都市はもとより、世界各国からの来岡者が飛躍的に増加するものと思われます。こうした人々を行政、民間団体、市民が一体となって温かく迎えるとともに、滞在しやすいまちづくりを進めていかなければならないと考えております。

会員の皆様におかれましては、市民交流の推進役、リーダーとして一層の御活躍をいただきますよう心からお願い申し上げます。



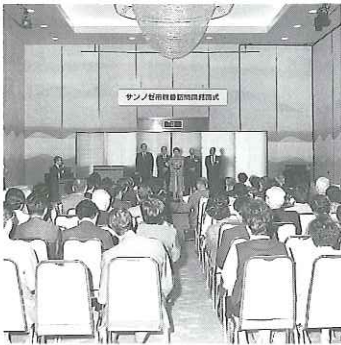
訪問特集

交流の足跡

(日時はいずれも
現地タイム)

10月12日(月)

親善訪問参加者は出発を5日後に控えたこの日、岡山東急ホテルで開催された親善訪問団結団式に臨んだ。席上、団長に松本岡山市長、副団長に本協議会の梶谷会長、片山岡山市議会議長、稲田岡山商工会議所副会頭、横山岡山市連合婦人会会長の四氏を選出。



▶ 結団式

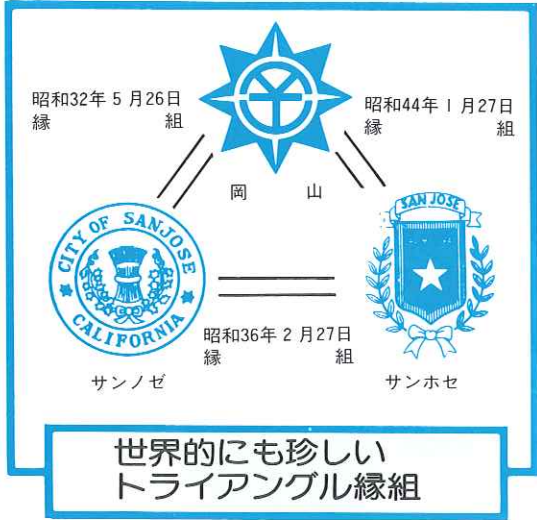
松本市長は「本日は新大陸発見を祝うコロンブス・デー。友好の新たな道を見つける旅としたい。」と決意表明。

10月17日(土)

台風19号の接近で出発が危ぶまれたが、明け方には風雨もおさまり、午前8時半までには団員が勢揃い。出発式の後、バス3台に分乗し大阪空港へ。成田から約9時間のフライトでサンフランシスコに無事到着し、早速、市内観光に。

▶ 出発式

鹿子木岡山市助役、苦水岡山市議会議長副議長の激励を受け、出発の挨拶と見送りの謝辞を述べる松本市長。



世界的にも珍しい
トライアングル縁組



▶ アメリカ到着

サンフランシスコ空港にはサンノゼゆかりの人々が出迎えてくれた。ロビーには「WELCOME」の横断幕や鯉のぼりも。

▶ フィッシャーマンズ・ワーフ

もとは「漁師の波止場」で魚貝料理店や土産品店が並び繁華街。金門橋を眺めながら遅めの昼食をとった。



10月18日(日)

金門橋や市街地を一望できる丘ツイン・ピークスを見学の後、サンノゼ入りし、トーマス・マツケナリー市長を表敬訪問。続いて、市内のケリー・パーク内の日本友情庭園「友情門」の完成式に参列。園内散策後、ダウンタウン(市中心部)再開発計画について説明を受け、夕方からの歓迎レセプションに臨んだ。



◀金門橋

カリフォルニアの青い空に映えるゴールデンゲートブリッジを見学。今春、瀬戸大橋の姉妹橋となる。

▶市長表敬訪問

日曜日にもかかわらず、市長をはじめ多くの市民の大歓迎を受け、会場の市議会会議室へ。



◀市内大改造

サンノゼ市再開発局長らから模型とスライドで再開発計画の概要を聞いた。熱心にメモをとる団員も。

▶進む再開発

市内随所で大型工作機械が行き交い、ビル建設や道路整備など着実に進む都市基盤の再整備を見ることができた。



◀弦楽奏で歓迎

表敬訪問後、市庁舎前ではメキシカン・バンドの楽しい演奏が始まり友好ムード一色に。



◀歓迎レセプション

会場のフェアモント・ホテルには歓迎の市民約600人が出席。一昨年来函した懐かしい顔もあちこちに。

▶「友情門」完成式

サンノゼ太鼓と約500人の市民の拍手の中を入场。日系市民の合図でくす玉を割って、門の完成を祝った。



◀通り初め

両市長を先頭にして後楽園慈眼堂をモデルにした友情門を通り初め。柱はアメリカ杉で瓦は日本製。



▶フェア開会式

祝辞、テープカットの後、両市長が招福ダルマに黒々と両目を入れ、フェアの開会を祝った。



▶園内散策

完成式典後、後楽園を模して造られた園内を散策したり、ティー・ハウスでお茶の接待を受けたりして楽しんだ。



◀オカヤマを紹介

フェア会場には岡山を紹介する写真パネル153枚が展示され、市民や買物客が熱心に見入っていた。

10月19日(月)

サンノゼ市民に姉妹都市オカヤマについての認識を深めてもらうため、この日から1週間パリアフェア・ショッピングセンターで開催された「サンノゼ・オカヤマ・フレンドシップ・フェア」の開会式に出席。午後は郊外の「レッドウッドの森」を散策し、夜にはサンノゼ市民宅を「ホームビジット」して触れ合いを深めた。



▶ヤキモノ問答

ガラスケース内には岡山の特産品194点を展示。サンノゼ市長に備前焼を説明する梶谷会長と松本市長。



◀レッド・ウッドの森
レッド・ウッドはカリフォルニア州の州木で、樹齢千年を超える巨木の生い繁った森の中は昼でも薄暗いほど。

▶ホームビジット

訪問先の方に送迎いただき、心のこもった手作りの夕食を家族と一緒に御馳走に。「大変楽しく、貴重な体験」との感想も。



10月20日(火)

西大寺小学校の姉妹校のブラックフォード小学校を訪問し、童心にかえって歓迎会や授業参観を楽しんだ。昼には、サンノゼ商業会議所、ロータリークラブ共催の昼食会に招かれ、席上、両市のロータリークラブの姉妹縁組調印式が行われた。午後は市議会を表敬訪問、市内観光の後さよならパーティに臨み別れを惜しんだ。



◀学校訪問

団員は数人のグループに分かれて授業参観。市連合婦人会からのおもちゃのプレゼントに子供たちは大喜び。

▶おりがみ

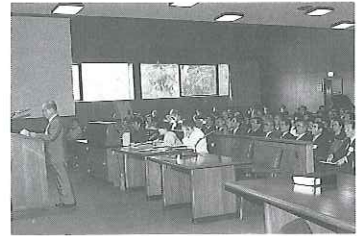
児童に折紙の遊び方を教える団員。女兒も興味深げに見つめ、覚えようと一生懸命。



◀2つの民間縁組
ロータリークラブ(写真)とボーイスカウトがそれぞれ縁組を締結。市民どうしの結びつきがさらに堅固なものとなった。

▶市議会訪問

ちょうど本会議開催中で傍聴席は熱心な市民でいっぱい。議事を一時中断して訪問団を歓迎してくれた。



◀ウィンチェスター
ミステリーハウス

38年間休むことなく増築され続けた160の部屋をもつ神秘的な洋館で、不可思議なひとときを過ごした。

▶さよならパーティ

会場には懐しい顔が勢揃い。いたる所で心温まる歓迎をしてくれたサンノゼ市民と「友情と再会」を誓い合った。



10月21日(水)

この日から、二番目の姉妹都市サンホセを訪問するAコース(46人)、アメリカ南部を回るBコース(24人)、アメリカの都市行政事情を視察する岡山市議会議員団等に分かれて行動。Aコース参加者はマイアミ経由で中米コスタリカの首都サンホセへ(Bコース日程は7ページに)。



◀サンホセ到着

夜にもかかわらず空港にはクルス市長夫妻、サンチエ市議会議長、江藤駐コスタリカ大使らが温かく迎えてくれた。



10月22日(木)

賓客並みに白バイで前後をガードされたバスで、日本大使公邸の訪問や市内観光の後、市長・州知事を表敬訪問。午後からは二手に分かれ、正副団長をはじめ代表者は今後の両市の交流についての協議に臨む一方、大半の団員は引き続き市内観光を楽しんだ。両グループは夜までには合流し、市民交歓会に参加し友好親善を深めた。

▶ 大使表敬訪問

江藤大使からコスタリカの概要を聞いた。大使によると「一度に46人も日本人が来訪したのは初めて」とのこと。



◀ 黄金博物館

スペイン植民地時代の約1600点の金製品を集めており、その精巧できらびやかな金細工にため息。この後、国立劇場へ。

▶ 市長表敬訪問

クルス市長、ケーレルマン州知事、市関係者らが出席。市長は「中米のスイスといわれる貴国で友好親善を深めたい」と挨拶。



◀ 交流協議

率直な意見交換の結果、岡山市制100周年記念に桜の苗木100本を贈るなど数点で合意し、交流の促進を誓い合った。

▶ 市内観光

金細工工場、コーヒー園のほか、世界七不思議の一つとも言われている球体の石(重量20トン)があるコスタリカ大学を見学。



◀ おみやげ探して
公式行事の合い間、市内を散策したり、土産品のショッピングをして楽しいひとときを過ごした。

▶ 市民交歓会

「友好を深めるためには、まず訪問し対話することが大切」と市長の挨拶。終始和やかな雰囲気の中、友情を確かめあった。



10月23日(金)

実質わずか1日だけの、しかし、充実した親善訪問を無事終えた訪問団は関係者の見送りの中、サンホセを立ち、南国ムード漂うマイアミへ。



◀ アディオス!

サンホセ郊外のファン・サンタ・マリア空港で名残りを惜しむ団員。アディオスはスペイン語で「さようなら」の意。

▶ マイアミ

紺碧の海に面して豪華なホテルやヨット・ボートを係留した色とりどりの別荘が立ち並んでいた。



10月24日(土)

「鹿に注意」の標識や水泳を楽しむ人々を見送りながらバスで南下、アメリカ最南端の町キーウエストやヘミングウェイゆかりの名所を訪ねる。翌25日にはロサンゼルス入りし、Bコースと合流。



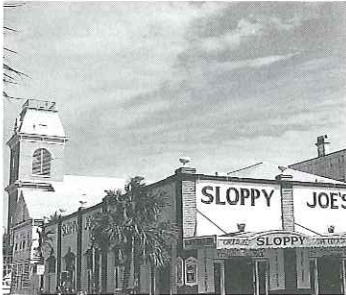
◀キーウエスト
最南端を示すサザン・モースト・ポイントを訪問。「キューバまでわずか140km」と聞いて、水平線に目をやった。



◀ミシシッピ遊覧
24日には、ニューオリンズから蒸気船ナツチェズ号に乗船。約2時間のトム・ソーヤ気分を味わった。

▶ヘミングウェイ

「老人と海」で知られるノーベル賞作家ヘミングウェイは20年間をこの地で暮らす。ゆかりの酒場(写真)等を見学し往時を思んだ。



10月25日(日)

ロサンゼルスでA・B両コース参加者と一部の現地参加者が合流し、無事な再会を喜び合った。昼食後はハリウッド地区を訪れ、旅行最後の観光を楽しんだ。



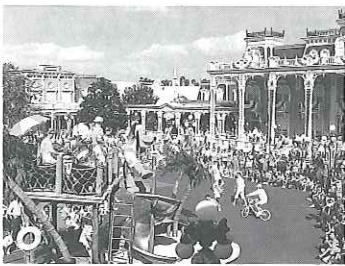
◀チャイニーズ・シアター

周囲に200人以上の映画スターの手形足形があり、おなじみの俳優のものを見つけて歓声をあげた。

— Bコース日程 —

10月21日(水)・22日(木)

Aコースと分かれて、ロサンゼルス経由でアメリカ南部のオーランドへ。夕食の日本料理で長時間のフライトの疲れを癒やした。22日は終日世界最大規模の総合レジャーランドであるディズニー・ワールドでウォルト・ディズニーの世界を心ゆくまで楽しんだ。



◀ディズニーワールド
エプコットセンターと呼ばれる未来実験都市や広大な遊園地「魔法の国」を童心に戻って楽しんだ。

▶ファーマーズ・マーケット

野菜果物販売店、レストラン、土産品店等200店余りが軒を連ね、特に破格値のフルーツに人気があった。



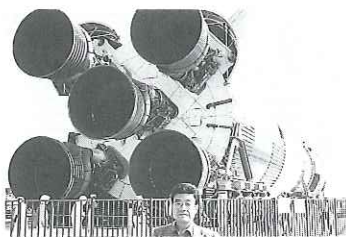
10月26日(月)・27日(火)

11日間の旅行を終え、帰国の途に。12時間近いフライトの後、27日全員無事に成田空港に帰着。大阪空港でバスに乗り継ぎ、午後11時30分、家族や関係者の待つ岡山市役所に到着。解団式の後、それぞれ家路についた。

アポロ計画等で知られるケネディ宇宙センターを視察後、デキシerland・ジャズの故郷ニューオリンズを訪れ、24日には蒸気船でミシシッピ川を遊覧。翌25日にはロサンゼルスでAコースに合流。

▶宇宙センター

施設内にはロケット組立工場、巨大な発射台、宇宙船等が点在し、スケールの大きさにびっくり。



◀ロス空港

トランクいっぱいのおみやげを持って、アメリカを後に。写真は出国前、空港ロビーでくつろぐ団員。

小さな国際交流

角山学区婦人会長 柳田 一枝

「サンノゼに行ってみよう」実現することのない夢として私の心に溜っていた思いが、サンノゼ市親善訪問団へ参加しないかとの呼びかけで大きく広がり、現実との交錯が始まりました。娘が交換留学生として一年間お世話になったお礼が言いたい、その関係で私の家を訪れてくださった多くの人達にお会いしたい、こんな思いが私の気持をかりたてます。市秘書課と娘の連絡でその人達に会ったり家庭を訪問することが出来るとわかった時、私の心は決まりました。いよいよ10月17日出発。10日間の旅はすべてがめずらしく、感動的で自分なりに見聞を広めることが出来、親切な団員の皆様に囲まれての毎日は何の心配もなく「すばらしい」の一言につきるものでした。とりわけサンノゼでの感動は、私の命ある限り心の中で温かみを失うことはないでしょう。一人で心細く思ったホームビジットも久し振りの親せきを訪れたような気持ちで迎えられ、言葉は違っても堅く握り合う手のひらから気持はよどみなく通じ合ってゆきます。私一人

の為に二組の家族が集まりたくさんの手料理を作り、その上小さな炊飯器を買いご飯を炊き私の家族全員にお土産まで揃えて待っていて下さったのです。心からの感謝と「来てよかった」そんな気持ちが熱いものとなってこみ上げてきました。出会いの大切さがこの素晴らしい再会によって私の心に一つ一つ焼きついて、「人間の心は一つ」「世界は一つ」そんな想いを強くしました。期待以上の感動と充実を与えてくれた10日間の友好と団員皆様のご親切に感謝しながら、微力ながらも小さな国際交流にこれからも努力しなければと思っております。



ホスト・ファミリーにウェスト・ポーチを贈る

コモエスタ・サンホセ!

高岡建設工業株式会社 花房 昌代

「広いなあー一日中飛んでもやっぱりアメリカ!」サンフランシスコを朝出発して、時差3時間のマイアミ経由でコスタリカに着いたのは夜の8時半。一日がかりでやっと到着。疲れ切つてうす暗い人気のない空港の長い廊下を歩くのは不気味な感じがしたけれど、サンホセ市長御夫妻はじめ市関係者が多数出迎えてくださったのに感激して、疲れも吹き飛んでしまった。特に、お国柄とはいえ、10才位の市長のかわいい息子さんが正装して立派に私達の歓迎をされたのには驚いた。

降りそそぐ太陽、紺碧の空、オゾン一杯のおいしい空気、緑に輝く大地、陽気で朗らかな人々、サンホセは自然も人々も底ぬけに明るいのです。

子供たちは幼時から、暴力は決してふるわない、物事はすべて話し合いで解決するように教えられるとの事。又、月4千円で4人家族が生活できると聞いて、「こちらで暮らした〜い!」と言い出す人もあったけれど、大豆とジャガイモの食事では、舌の肥えた日本人にはとうてい無理。現地の日本人の話では、アパートの家賃だけでも月15万円で、いいメイドを見つけるのにも一苦労。日

訪問団に

本食なんてのはぜいたくで……。

紺色ボディに大きな白字のTOYOTAも鮮やかなトラックを誇らし気に運転して現われる陽気な市長さんをはじめ、州知事さん、議員さんみんなとても好意的でした。一般公開されていない地下金庫の黄金博物館を見せていただいたり、時間のない私達の為に白バイの先導で、混雑した街中を大型バスでピュンピュン走りまわったり、片言の英語・スペイン語・日本語をごちゃまぜにして笑いこぼれた交歓パーティ等々楽しい思い出いっぱいです。ムーチャス・グラッシアス!
(はいんありがとう!)
アディオス・コスタリカ/アステラピステ・サンホセ/
(さようならコスタリカ!) (また会いましょうサンホセ!)



サンホセ市長夫人と市長の愛車



小さなホステスの思い出

岡 千代子

今回サンノゼ親善訪問団の一員として参加でき、ありきたりの観光旅行とは一味違った旅を体験することができ感謝しております。その中で忘れぬ思い出として、10月20日に訪問した、ブラックフォード小学校4年生のジャミーラ・アレンのことを記しておきたいと思います。

その日10時前に小学校に到着し、心のこもった歓迎会の後、5～6人のグループに分れて授業参観が行われましたが、その時のスチューデントガイドの一人に、ジャミーラがいました。彼女は黒い膚で手足が長く、ほっそりとしたやかで、髪は幾筋もの細い三つ編みで飾られていました。彼女はわずか40分程の間に我々をつれて20教室廻るのです。私達も彼女のメモをのぞきながら、必死で歩きました。図書館まで来た時彼女は“出発まで何分くらいあるの？余裕があればもう2教室廻りたいのですが”と提案してくれました。時間通り参観が終り、別

れの時が来ました。私は財布の中に入れていた5mm程の陶製のカエルを彼女に渡しました。“これはお守りよ、これを持っていると、きっと億万長者になれるから”彼女は目をキラキラさせて、両手でそれを握りしめると、いきなり私の首に抱きついて何度もキスをしました。“ママが東京にペンフレンドがいるからそのうち行くわ”“近いうちにね”“多分来年”彼女の態度には今自分ができる精一杯の事をしようとする神経を張りつめているのがよく解かりました。そして目のキラキラした足の長い少女は我々の乗ったバスにしきりに手を振っていましたが、やがて教室に帰らなくちゃといった様子で芝生の上を駆けて行きました。



ブラックフォード小学校を訪ねて

参加して

思い出のニューオリンズ

光岡会計事務所 光岡 和海

私は去年10月、松本市長一行の訪米使節団に参加した。アメリカ西部から東部、そして南部とアメリカ大陸を横断したが、各都市の持つ表情は、まるで違った国へも来たかと思わせるほど、さまざまな顔を私に見せてくれた。特に印象深かったのは、黒人が60%を占めているニューオリンズである。この街はアメリカの都会の中で一風変わった雰囲気を持つ街で、フランス、スペイン、再びフランス、合衆国と移った歴史が、南欧的な街並と開放的な人々、そしてデキシーランドジャズを生み出した街である。この街の富を物語る大邸宅の並ぶアップタウンを訪れると、映画「風と共に去りぬ」を思い出さずにはいられなかった。ミシシッピ川遊覧の船上で出会った陽気な人々。思い思いの楽器を持ちよって、道の真ん中でジャズを弾く一家。ビール1杯で何時間でもジャズの聴ける店（ただし店の窓は開いていて、外にいても十分な位大きな音で聞こえてくるのだが）。ロイヤル通り、パーボン通りの持つ夜の顔。日の出と同時に開店するフ

レンチマーケット。道幅が狭い為、馬車が通るとそのあとを、クラクションを鳴らす事もなく、馬車のスピードにあわせて走る車の行列。

2日目の夜、とてつもない大きさのステーキを、やつとの思いで半分食べたあと、世界一大きいというスーパードーム（屋根付球場）にカレッジフットボールを観戦にいった。さすがNo.1、10万人を収容可能なドームは、外から見ただけではわからない大きさを、中に入って実感した。

本当に時間さえ許せば、1週間、いや1カ月は滞在してみたい街だった。



ミシシッピ川遊覧船のデッキにて



你好！岡山のみなさん

こんにちは

洛陽市友好訪日団が来岡

岡山市は昭和56年4月、中華人民共和国洛陽市と友好都市縁組を結んで以来、さまざまな分野で交流を行っています。昨秋には、李本榮副市長を団長とする洛陽市友好訪日団一行4名が来岡され、5日間の交流を通じて友好親善を深めました。

11/6(金) 京都・奈良を参観ののち、新幹線で岡山入り。岡山駅では多くの市民が一行の来岡を歓迎。



◀一行は市役所に松本市長を表敬訪問。和やかに懇談する中、友情の絆を確かめ合った。

▶同夜、本協議会主催の歓迎レセプションに出席し、会員や市民との友好を深めた。



11/7(土) 市立市民病院を視察ののち、両市関係者で今後の交流について協議。技術研修生と経済視察団の受入れ、公式訪中団の派遣等で合意した。

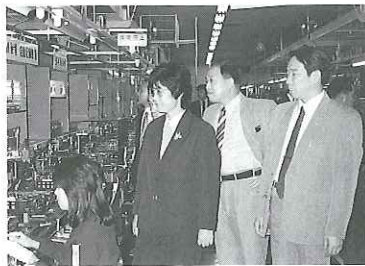
11/8(日)

▶市立オリエント美術館(写真)や市立中央図書館を見学。

好天に恵まれた午後は陸上から完成間近の瀬戸大橋を視察した。



11/9(月) 午前中は洛陽市立実験小学校と友好縁組を結んでいる平福小学校と後楽園を訪問。



◀午後からは市内のビデオ工場を訪れ、先進工業技術を視察。説明にうなずきながら「すばらしい」を連発。

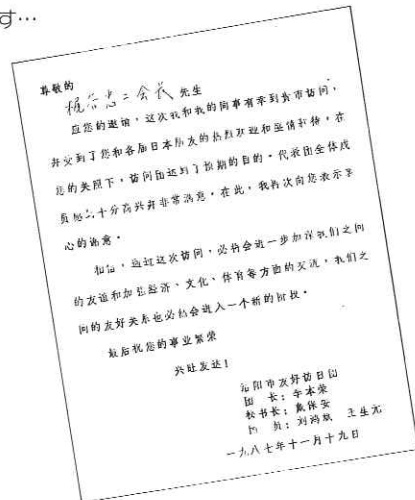
11/10(火) 一行は短い岡日行程の中、多くの交流行事に精力的に参加。

▶女性団長らしくさわやかな笑顔を残して離岡。両市の友好関係は一層堅固なものとなった。



一行から届いた裾谷会長宛の礼状(要点和訳)

…今回の訪問により、将来さらに我々間の友誼が深まり、経済・文化・スポーツ等の分野の交流が強化され、友好関係も必ずや新しい段階に入るものと確信いたしております…





がんばってます! 中国語研修生

協議会では今年度初めて、中国語を学ぶ研修生2人を岡山市の友好都市である中国・洛陽市へ派遣しています。山名和久さん（自営業）と矢田知佳子さん（大学4年生）の2人で、昨年9月から約1年間、洛陽工学院（国立の工科系大学）で中国語の研修を受けるとともに、友好親善に努めています。2人の活躍ぶりを紹介します。



只今36歳、
洛陽にて奮闘中!

山名 和久

昨年9月、洛陽での生活がスタートしたころ、私は何を話しかけられても聞きとれず、返事も全くできない状態で、とんだ感違いをすることもしばしばだった。生活すべてが中国語の世界で、授業に慣れるまでが大変だった。私を陰から助けてくれたのは、はるかに年下の中国の学生たちだ。彼らは、実に礼儀正しく、やさしく、親切である。言葉にもなんとか慣れはじめた大膽日、私は学生たちに誘われ、彼らの催す学内のダンスパーティーで、一晩中踊りあかし、新年をおかえた。彼らと踊りながら、この国の胎動する若いエネルギーに、しばし感動



洛陽植物園での課外授業

した。彼らは、実に陽気で明るい。

洛陽の朝、工学院の周囲をジョギングしていると、太極拳をする人、ジョギングする人を街頭、公園のいたる所で目にする。洛陽の人々も、体を鍛えることには熱心だ。放課後、街に出ると、百貨店・商店・街頭は人々でごったがえし、実ににぎやかである。この街で知り合った人々と、まだ充分なコミュニケーションができない事が残念かつ、心ぐるしい。少しでも早く、自分の気持ちを言葉にしたい。

まだ入口を通過したばかりの私の中国語。この国の言葉を、なんとか自分のものになりたい。私、只今はずかしながら36歳!しかし、この歳何するものぞ!今、エンジン全開!奮闘中!



洛陽にて思うこと

矢田 知佳子

昨年8月末、汗を流しながら洛陽の駅に下り立ちました。“この暑さは日本と違う。太陽が頭の上から降ってくる。ここは中国なんだな”。あれから、もう7カ月がたち、11月には初めての雪も降りました。

私は、以前に2回中国を旅行したことがあります、旅行者として感じる中国、中国人とここに住んで感じる中国、やはり趣が違うものです。親しくなればなる程、彼らは懐を大きく広げ、まるで本当の親のように、兄弟のように受け入れてくれます。

しかし、なんととっても一番大きな障害は言葉です。



洛陽工学院正門

今回の研修の目的は中国語を学ぶことなのですが、ここに来たての頃は簡単な会話しかできませんでした。先生方も中国語以外は話せないし、私もカタコトしかできなくて、初めて顔を合わせた時は、両方とも、さて、どういふ風に授業をしたものかと困ったものでした。

現在、ある程度自分の思っていることを相手に伝えることも、相手が話すこともわかるようになりましたが、まだまだ、複雑な会話は無理です。洛陽の友人達と親しくなればなる程、もっと話をしたい、もっとつっこんだ話をしたいとの思いは強くなります。あと半年のうちに、彼らと文学を語り、両国を語り、また冗談も言える、そういう絆を深めていけるように、一生懸命勉強しなければと考えています。

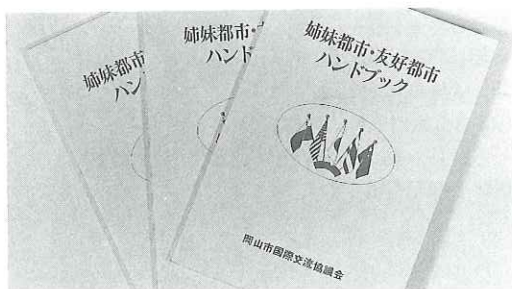


ふ



▶唐三彩の馬像を設置 (62・1・13)

洛陽市との友好都市縁組5周年を記念して岡山市日中友好協会から岡山市に寄贈されたもので、市立中央図書館2階ホールに設置。体高1.2m、体長1.1mの勇壮な馬像で同年11月には来岡中の洛陽市友好訪日団一行も見学。



▶もっと姉妹・友好都市のことを知ろう (62・3)

協議会では『姉妹都市・友好都市ハンドブック』を作成し会員や希望者に配付した。ハンドブックは各都市の概要を人口・気候・行政・交通・産業・教育・観光等の分野別にとりまとめたもので、随時、改訂していく予定。



▶岡山サンホセ交流協会が発足 (62・6・6)

サンホセ市との交流を民間レベルで推進するために結成された会員制の団体で、本協議会会員の谷義仁さんが会長に就任した。今後、児童画の交換、コスタリカ産コーヒーの輸入促進、親善訪問団の派遣等の諸事業を行う計画。事務局は駅元町「サンホセ」(0862-53-7341)に設置。

れ

あ

い



▶サンノゼ交換学生が来岡 (62・6・24)

サンノゼ市の第29回交換学生のクリス・ジョーンズ君とベギー・ヘンダーソンさんが来岡。ホームステイしながら、書道・琴・柔道・珠算・備前焼・真多呂人形・生花・刺しゅう等幅広く日本文化を勉強し、市民の人気者になった。写真は来岡当日、松本市長を表敬訪問したときの様子。



▶心のふれあいを求めてサンノゼへ (62・8)

30回目の派遣交換学生の源通英種君と川上尚子さん(写真中央の2人)は、サンノゼ市民の家庭で生活しながらサンノゼ州立大学で勉強している。現在、市内の小学校で「桃太郎」などの童話を英語の紙芝居で紹介するなど親善大使として活躍中。写真は交換学生を囲む会(7月22日)にて。



▶中国語をマスターしてきます (62・8・21)

協議会が初めて派遣する語学研修生が元気に出発。山名和久さんと矢田知佳子さんの2人で、友好都市の洛陽市内にある国立大学の洛陽工学院で約1年間勉強するかたわら、両市の友好発展のため頑張っている(2人の活躍ぶりは11ページで紹介)。



ト

ピ

ツ

ク

ス



▶サンノゼから英語指導
に来岡 (62・9・3)

このたび外務省等の招致により来岡したのはサンノゼ州立大学の元講師メリッサ・ケイン先生で、今年7月まで市内の中学校で英語の指導にあたっている。さわやかな笑顔を絶やさない授業がわかりやすく楽しいと中学生に大好評。休日には愛用の自転車でサイクリングしながら、日本文化の勉強にも余念がない。



▶数学大会で親善を図ろう (63・1・18)

サンノゼ市との友好親善と学力アップを目的に昭和44年から毎年開催されている中学生親善交換数学大会の第19回トロフィー贈呈式が行われた。両市の中学生約900人がチャレンジ(62年1月実施)した結果、平均点でサンノゼ側がやや上回った。岡山側の参加校の上道中学校にも参加トロフィーが贈られた。



▶日中友好の鐘を開眼
(62・10・22)

岡山市日中友好協会の仲介により、中国最古の寺といわれる洛陽市の白馬寺から贈られた梵鐘で、市内南方の長泉寺に安置された。高さ1.2m、胴回り2.5m、重さ400kgの銅製の梵鐘の開眼供養法要には日中両国の関係者が多数集まり、日中友好を誓い合った。



▶姉妹縁組サンホセ市展開かれる (63・1・20)

昨年6月発足した岡山サンホセ交流協会の主催により、市内の喫茶サンホセで開かれた姉妹都市紹介の催し。昨年10月の親善訪問時の交流風景のビデオ・写真やポスター・郷土玩具・民芸品等を関係者が持ち寄り展示。中米コストリカの横顔を知ることができるユニークな展示会として定着。

「仲間の枠を抜けよう！」
イーデス・ハンソンさんが記念講演

昭和63年1月23日、協議会では岡山市との共催により岡山市の姉妹都市交流30周年を記念した国際交流講演会を市立市民文化ホールで開催しました。

講師は女優・エッセイスト・インタビュアー等幅広い分野で活躍中のイーデス・ハンソンさんと、会員をはじめ約600人の市民を前に『わたしの日本観』をテーマに予定時間を約20分も上回る熱演でした。

流ちょうな関西弁での講演の後半には、演壇から客席に降りて市民と楽しく対話するなど、気さくなハンソンさんの人柄がしのばれるユニークな講演会となりました。(講演の要旨) 外国人が日本のことを勉強し、日本語も十分話せるようになって、なかなか仲間として接してもらえない。



仲間意識の強さが日本の国際化の障害となっているから、仲間意識を無くせとも言われる。しかし、日本人の仲間意識には人を大切にするという良い部分もあるから、むしろ、自分たちとの違いをプラスと認め、仲間の条件を緩めてはどうか。このことにより、仲間を大切にするという日本人本来の良さが理解され、正しい評価につながるのではないか。



☆☆☆☆☆☆ 会 ☆☆☆ 員 ☆☆☆ の ☆☆☆ 広 ☆☆☆ 場 ☆☆☆☆☆☆☆

路上観察・洛陽へ

岡山サンホセ交流協会会長 谷 義仁

町の中で人が見過すようなものに特に興味を示す、得物の知れない「岡山路上観察学会」と称するグループがある。

そのグループが洛陽へ路上観察にでかけた。グループ各人のてんでばらばらの興味の示し方に、案内のセツさんは最初当惑していたように思われた。しかし、次第に私達の意図を理解されたようで、バスの運転手のヨウさんと共に、心温まる案内をしていただいた。

洛陽市内の中心部、老城の中、そして竜門、関林寺、白馬寺など自分のテーマにそってさまよい歩き、カメラのファインダーをのぞいた数日間であった。大黄河の中州で種なし西瓜をご馳走になった時のことは印象深い。

中国料理は口に合わないのではないかと心配したが、皆んな実によく食べた。洛陽では、お皿が空になると断らない限りお替りがすぐ来た。列車の中の冷えていないビールもよく飲んだ。欧州から米国へ帰った時のことも思い出して、人間の適応性の強いことを感じた。

その洛陽での観察の結果や土産物（？がつくものも）等を学会洛陽展として、駅元町の喫茶店サンホセに展示し好評を得た。洛陽から来岡している方々より、自分達の全然気のつかない所を良く見ているとおほめをいただいた由の話もお聞きした。

洛陽を出発する日、ホームまで見送りに来てくださったセツさんの、目頭を赤くして手を振っていた姿が、列車の窓から次第に遠のいていった時のことは忘れることはできない。

(追)昭和64年にはコスタリカのサンホセとの都市縁組締結20周年を記念して、当地を訪ねたいと思っている。



グレッグ君と寺めぐり

グレッグ・スネル君の思い出

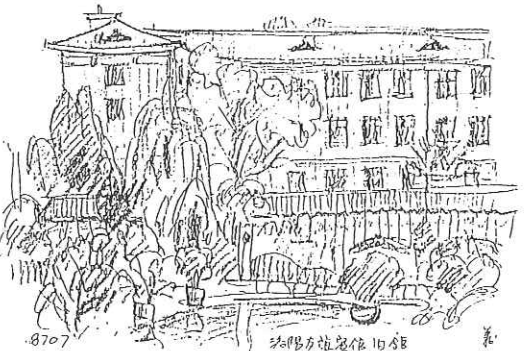
ホームステイ受家庭 小川 望

昨年の夏、サンノゼ出身の大学生グレッグ君が、約1ヶ月間我が家に滞在した。「日本語と日本の文化を勉強したい。」という事だったが、1ヶ月と限られた短い期間だったので、我が家の一員として生活を共にし、そこから何かを学びとって貰うのが一番いいのではと、都合良く自分流に解釈し、特別扱いすることなく迎入れた。

「日本にいる時は、日本人のする様にしたい。」という彼の積極的な協調性のある態度により、小3、小2の子供たちはもとより、英語の話せない義母も、いつも仕事から疲れて帰宅する主人も含め、我が家族は、一度も彼の存在に当惑する事もなく、あつという間に過ぎ去った1ヶ月間だった。果して日本の大学生が外国でホームステイをする時、彼のような好青年でいられるだろうかという思いが、ふっと頭をよぎる程、好感の持てる青年だった。

広島市の平和公園を訪れた時の事、原爆資料館の中で、米国人の彼と日本人の私が一緒に、かつての事実をみつめているという何とも説明し難い思いが、心の中に湧き起こるのを感じたが、一歩外へ出て、どこまでも続く青い空を見た時、私たちは共に平和をいつまでも愛さなければならぬと強く感じた。「ここに来て良かった。」と言った彼も、恐らく同じ思いだったのではないだろうか。

国際交流という言葉が盛んに使われるこの頃、岡山も瀬戸大橋時代を迎え、増々これから市民のレベルでも交流の輪が広がっていく事だろう。「岡山の人は本当に親切で嬉しかった。」と彼の残した言葉を、私はいつまでも覚えていたい。



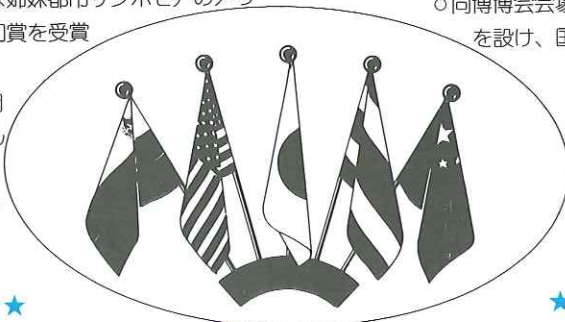
洛陽友誼賓館別館(筆者のスケッチ)



ホッ人 三二情報

- 元サンノゼ交換学生が次々と来岡。ロバート・ホール（昭和38年）、シャロン・ヒロサワ（昭和50年）、交換学生どうしゴールインしたスーザン・ヨネダ（昭和52年）とジーン・ヨネダ（昭和54年）の皆さん。親しい仲間と旧交を温め合った。（カッコ内は受入年度）
- ブルガリアのプロブディフ市長にストヤン・コシユレフ氏に替わってディミタール・バカロフ氏が就任。
- サンノゼの電話ボックスがNTT岡山電話局前に設置された（62・1・20）
- 協議会の元理事でサンノゼ交換学生選考委員長を務めたことがある大藤眞氏（岡大前学長）が退官され、現在、岡山県日中懇話会会長として活躍中（62・6・13）
- コスタリカ共和国（首都は姉妹都市サンホセ）のアリアス大統領がノーベル平和賞を受賞（62・10・13）
- 洛陽市外事弁公室職員で岡山大学に留学中の李京さんが日本語弁論大会で優勝・優秀賞を次々と獲得（62・10～11）

- サンノゼの国際交流団体/パシフィック・ネイバース会長ブルース・マクレランド氏が退任し、新会長にメイ・ハセブロック氏が就任（62・11）
- 西川緑道公園水上テラスに姉妹・友好都市の方角を示す方位盤を設置。岡山せとうちライオンズクラブから市に寄贈されたもの（62・11・13）
- パシフィック・ネイバース元会長のハワード・スターン氏が癌のため死去。御冥福をお祈りします（63・1・12）
- 協議会では「姉妹都市親善訪問写真展」を天満屋岡山店地下の市民ギャラリーで開催。昨年10月、サンノゼ・サンホセ両市を訪れた親善訪問団の現地での交流風景などを写真/パネル約100点で紹介、市民の好評を博した（63・3・4～9）
- 瀬戸大橋博'88会場に洛陽市の名花「洛陽ポタン」が展示されることになり、博覧会終了後、市立半山山植物園に移植される予定（63・3～）
- 同博博会場では「姉妹、友好都市の日」を設け、国際色ゆたかなイベントを開催



- ・4/14・15 洛陽の日
- ・5/20 プロブディフの日
- ・5/28 サンノゼの日
- ・6/3 サンホセの日



伝言板



市紹介ビデオ(外国語版)の活用を!

- ▷岡山市は姉妹・友好都市を中心に広く海外に市のプロフィールを紹介するため、英語・中国語・スペイン語及び日本語の4か国語版のビデオを作成しました。
- ▷このビデオはVHS方式の30分もので、市勢概況・交通・産業・文化・観光・国際交流等をコンパクトにまとめ、美しい映像と音楽で紹介しています。
- ▷国際交流部門では今年度のサンノゼ交換学生のクリス君とペギーさんと昨年度交換学生のエルソン・ポールズ君も登場、ペギーさんは英語版ビデオのナレーションも担当しました。
- ▷岡山市では外国人来訪者や県外からの来訪者にも見てもらうなど、市民の方にも利用を呼びかけています。（利用方法）市広報課（電話0862-25-4211内線2446・7）に備え付けの利用申込書に必要事項を記入・押印すれば、無料で1か月まで借りることができます。

■こちらデスク■

ここ数年、外国からの来岡者が増加し、国際交流事業も多様化してきており、本号の発行にあたっても限られた紙面での記事の取舍選択に悩まされ、嬉しい悲鳴をあげながらの編集でした。

サンノゼ市との姉妹都市交流30周年記念事業の実施にあたっては、本協議会も物心両面から協力を行い、61・62年の2年間にわたり両市で開催された祝賀行事も無事終了。この紙面を借りて会員はじめ関係の皆様にお礼申し上げます。

1月には協議会としては初めての国際交流講演会を開催。講師の人選・会場の準備等すべて手探りのなか、特に入場整理券の発送は当日の天候等により大きく変動するという出席率を予想しながらの作業でした。しかし、会場でお願いしたアンケート結果によると87%の方から「参加してよかった」との御感想を寄せていただきホッとしています。

この国際交流に関するアンケートでお聞かせいただいた貴重な御意見は今後、国際交流事業を進めていくうえで大いに参考にさせていただきますと考えております。御協力ありがとうございました。